

令和2年8月27日  
101会議室

令和2年第16回  
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

## 令和2年第16回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和2年8月27日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 4時28分

2 場 所 101会議室

3 出席者

教育長 小町 邦彦

教育委員 田中 健一 伊藤 憲春

嶋田 敦子 小林 章子

署名委員 伊藤 憲春

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 大野 茂 教育総務課長 小林 直弘

指導課長 前田 元 統括指導主事 寺田 良太

統括指導主事 川崎 淳子 教育支援課長 秋武 典子

学校給食課長 南 彰彦

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 笹原 康司 柏崎 彩花

## 案 件

### 1 議案

- (1) 議案第51号 令和3年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について
- (2) 議案第52号 令和3年度使用立川市立小学校特別支援学級教科用図書の採択について
- (3) 議案第53号 令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について
- (4) 議案第54号 令和3年度使用立川市立中学校特別支援学級教科用図書の採択について

### 2 協議

- (1) 令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について

### 3 報告

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

### 4 その他

## 令和2年第16回立川市教育委員会定例会議事日程

令和2年8月27日

101会議室

### 1 議案

- (1) 議案第51号 令和3年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について
- (2) 議案第52号 令和3年度使用立川市立小学校特別支援学級教科用図書  
の採択について
- (3) 議案第53号 令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について
- (4) 議案第54号 令和3年度使用立川市立中学校特別支援学級教科用図書  
の採択について

### 2 協議

- (1) 令和3年度使用立川市立中学校教科用図書  
の採択について

### 3 報告

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

### 4 その他

---

◎開会の辞

○小町教育長 ただいまから、令和2年第16回立川市教育委員会定例会を開催いたします。  
署名委員に伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 はい。わかりました。

○小町教育長 次に、議事進行についてお諮りいたします。本日は議案2件、協議1件、報告1件でございますが、2協議(1)令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、は本日の協議において教育委員会としての意見がまとまり次第、本定例会におきまして追加議案として提出させていただきたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 続きまして、来年度に立川市立中学校の特別支援学級におきまして拡大教科書の使用が見込まれ、また、その採択にあたっては先にお諮りいたしました追加議案で採択を行った発行者の発行する拡大教科書を使用する必要があることから、令和3年度使用立川市立中学校特別支援学級教科用図書の採択について、を本定例会において追加議案として提出させていただきたいと思っておりますが、異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 また、通常ですと議事進行はお配りしました議事日程の順になりますが、先ほど申し上げた理由によりまして議事の順番を変更いたしまして、2協議(1)令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、を最初に行いたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 では、そのようにさせていただきます。

次に出席者の確認を行います。大野教育部長、お願いいたします。

○大野教育部長 本日第16回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございます。教育部長、教育総務課長、指導課長、川崎統括指導主事、寺田統括指導主事、教育支援課長、学校給食課長でございます。

---

◎協 議

(1) 令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について

○小町教育長 それでは、2協議(1)令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、を議題といたします。

それぞれの委員が調査研究をした成果等を踏まえましてご意見をいただき、教育委員会の権限と責任におきまして協議を進めてまいりたいと思っております。

それでは協議、質疑に入ります。ご意見をお願いいたします。こちらから指名させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、国語よりまいります。伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 国語の教科書につきましては、このことが決まりましたから何回ともなく調査をさせていただきます。私としては、現在使われております光村図書出版の教科書が比較的分かりやすく、立川の子どもたちによっていい教科書ではないかなということで、ご推薦申し上げます。

○小町教育長 続きまして田中委員、お願いします。

○田中委員 最初に国語科について申し上げる前に、立川市中学校教科用図書の採択にあたって、幾つかの観点をもって調査・研究をしてみいました。その上で6つの観点を申し上げたいと思います。

まず1つ目、東京都教育委員会の担当指導主事が調査研究をした令和3年～6年度使用の教科用図書調査研究資料を確認いたしました。

2つ目、立川市の生徒主体の教科書として光村図書から廣済堂あかつきまで、全部で18者ございます。18者全ての中学校教科用図書編修趣意書を基に比較検討をしてみいました。

3つ目、立川市の生徒のための教科書として18者の中学の教科用図書の内容を調査研究をしてみいました。今、各教育委員の机の上には載っていますが、これらの教科書全て一通り目を通しながら調査研究を進めてまいりました。

4つ目、中学校教科用図書調査研究部会及び選定検討委員会、この方々が調査研究したものを基にしながら、私どもで再度内容を確認させていただきました。

5つ目、令和2年度、中学校教科用図書見本本、市内に9校ございますので9校の先生方のアンケート、それ全てを確認いたしました。

最後は、令和2年度、中学校教科用図書見本本、市民の方々からたくさんアンケートを頂戴しておりましたので、それをもとに確認をしました。

そのことを通しながら科目及び種目について、それぞれ検討して1者に絞ってみました。立川の生徒の実態あるいは課題、そして今後どうあるべきか、そのことを踏まえながら1者に絞りましたので、その絞った理由について申し上げたいと思います。

国語については、光村が望ましいと思えました。光村は「主体的・対話的で深い学び」として、例えば1年生のP.134、212の「学習の窓」というのがあります。その中で、個から集団、さらに集団から個への活動と対話的な学びを深めていました。また、1年生のP.34、146の「話す・聞く」などでは、教材「達人からの一言」として、コピーライターや小説家からのアドバイスが掲載してございました。とてもよい工夫だと思います。情報の取扱いに関する事項では、2年生P.60で、題材「情報社会を生きる」においてメディアリテラシーを育成する教材が設けられておりました。教育課題への対応では、学力向上を取り上げ、全国学力調査をもとに「新しい現代の国語力」として本市の生徒の課題に資するものと思えました。

さらに、小中連続も重視していたのはとてもよいと思えました。例えば3年のP.163「古典名句・名言集」を設けておりましたし、論説や古典などでは高校への橋渡しになる教材かなと思えました。さらにQRコードコンテンツ、デジタル教科書については動画も多数見ら

れました。中を調べましたところ約60本ほど入っていますね。今後の活用を見通した場合に必要と思われる、そのように思いました。

これらを総合的に考えた場合に、本市の生徒の現状、課題を踏まえながら、光村が望ましいと思いました。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 どの教科書も大変工夫してつくられていて、題材もそれぞれ違うのでどれか1つを選ぶのはもったいないような気がしましたが、やはり光村図書のものは題材のバランスがいいことと読書活動を促す工夫が豊富なこと、また、学習というページの中などに要約しようとか、文章にまとめようというふうに各活動が頻繁に入っているのも、より深く読む力がつくように思いました。

○小町教育長 小林委員、お願いします。

○小林委員 田中委員、嶋田委員が言われたように、どの教科書もすごく工夫がされていて、今の子どもたちが読みやすいような工夫がされているなと思いました。その中でも光村図書は「学習の窓」、先ほど出ましたけれどもそこでポイントがまとめてあって、学習の流れが見通し、捉える、深める、考えをもつ、振り返るというふうな流れが示されているので学びやすいのではないかと思います。あと、古典のところで現代語訳が行ごとに左側に青い字で書いてあるので、これ特徴があるなと感じました。QRコードですけれども、各者活用していますが、光村図書では作者のインタビューがあったり、朗読があったり、話し合いの様子の動画があったりとすごく力が入っているなと思いました。これをQRコードを使って学ぶというのはすごく活用できるのではないかな、子どもたちが興味を持つのではないかなと思いました。

もう1者ですが、東京書籍が新しいちょっと冒険的な試みで、「学習の扉」というところで漫画を使ったコーナーがあるんですね。教材ではなくて漫画を手段として学びに使うということは、ちょっと目を引くというか興味深いところでした。子どもたちがついつい引き込まれてしまうような方法でもありますし、しかも内容もよく考えられているもので、これは効果的だと思います。あと、古典も題材が浦島太郎のお話が昔の古典から今の浦島太郎の話までに変化するというような内容であったりとか、イソップ物語が古典で「伊曾保物語」というのがある、同じようなのがあるというのが出てきたり、ちょっと興味を引かれる内容です。全体的に文体が柔らかくて馴染みやすいので、これは教科書としては冒険なのかなと思います。

光村図書は東京書籍に比べると教科書っぽいかないというふうな感じなので、どちらもいいなと思いますが、国語ですので、スタンダードに授業が進めやすいということを見ると光村図書なのかなという気がいたします。

○小町教育長 国語に関しまして、私から述べさせていただきます。ご存知のとおり、新学習指導要領に沿って教科書が編成されていて、中学でもいよいよ本格実施ということを踏まえ、**「主体的・対話的な深い学び」**ということを目指して子どもたちが学びを展開する

わけでございます。そういった主たる教材になるのが教科書というふうにと考えると、やはり学習の見通しを示す中におきまして、各者本当に系統立ててそれを意識して組まれているというのは大変評価するところでございますけれども、ただあまりに分量が多過ぎる教科書が見られまして、そうすると子どもたちの思考を先回りしてしまうということになりかねないということがございます。やはり主体的に考えるということが本新学習指導要領の大きなポイントでございますので、そういったところでその手立てを示すときの量的なもの、質的なもののコントロールというのが、されているのが光村ではないかなと思っております。

それから、思考を「広げる」、「深める」というツールといたしまして、マッピングであるとかブレインストーミングなどを明示しているのも大変いいかなと思います。これは対話的な学び、協働的な学びにもつながるし、その気づきによってそれぞれの学びを深めると、深い学びにもつながるところかなと思っております。巻末の「学習の窓」というところで説明的文章と文学的文章の読み方がまとめられておりまして、論理的に読む力が最近落ちているということが各先生方からご指摘いただいているところでございます。そういった意味でいうと、説明的文章の読み解きということをしかり焦点化しているということも大きなポイントかなと思ひまして、私も光村を推したいと思ひます。

○**小町教育長** それではお諮りいたします。国語につきましては光村図書ということで、皆さん、よろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○**小町教育長** 異議なしと認めます。では、国語については光村図書出版といたします。

続きまして、書写でございます。田中委員、お願いします。

○**田中委員** 書写については、4者の中で光村がよいと思っております。理由としては、光村は教科に関する内容から考えますと、学習の進め方の中で「考えよう」から「確かめよう」、さらに「生かそう」、一貫した構成がされておりましたし、生徒にも非常に理解しやすいと私は感じました。別冊で「書写ブック」を硬筆練習帳として記載されておりましたし、ハガキ原寸大の書き込み欄がありました。これは生徒の学びを深める上でとてもよいと思ひました。特に「全国文字マップ」で全都道府県からの看板や石碑などが掲載されておひまして、生徒の興味・関心を高める教材としてとてもよいと思ひました。

また、教育課題への対応では、カリキュラム・マネジメントとして他教科連携や学校生活の活動を設定してございました。とてもいい工夫だと思ひます。さらに、小中連続については「書写ブック」を記載していたのはよいと思ひましたし、併せて、コンテンツごとにQRコードが掲載してありました。教材文字の運筆動画については、テロップ・ナレーションがあるとよいと思ひました。この辺りは一つの課題かなと思ひますが、非常に分かりやすくユニバーサルフォントが使用され、なおかつカラーユニバーサルデザインの配慮がされておりました。とてもすっきりしたレイアウトで、特に特別支援教育への配慮からもとてもよいと思ひました。

以上のことから、書写は、生徒の立場から総合的に判断して光村が望ましいと思ひました。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 私は、教育出版のものも学校や地域や家庭の中でも使えそうな例が多彩で毛筆などのお手本も分かりやすいと思いましたが、国語の教科書が光村図書ということであれば、国語と関連づけて使える光村図書のものもシンプルで見やすいですしUD書体などの新しい題材とか、実用例も適切に入っているのもいいと思います。

○小町教育長 小林委員、お願いします。

○小林委員 私も光村図書がいいかなと思います。国語と同じように「考えよう」「確かめよう」「生かそう」というふうな、はっきりと流れが明示してありますので授業が進めやすいと思います。それからQRコードがあるので、授業中にそれをどういう使い方をするか分からないですけども、より詳しく分かる、理解ができるというような内容のQRコードになっていますので、とても参考になると思います。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 私も皆様と同じように光村図書がいいのではないかと。1つは国語の教科書との関連であるとか、全体的な流れを見てとても分かりやすく、小学校からの流れというのが、小学校の教科書がちょっと変わりましたので、少しつながり的には弱いところもありますけれども、全体的なバランスとして、パッと見たところ、じっくり見せていただいたところ、いろいろな角度から見たところで、光村がいいのではないかと考えております。

○小町教育長 では私も述べさせていただきます。硬筆ですと教科書の題材を扱っていることが大変多くなってしまっていて、そういった意味でいうと国語の教科書との連携ができるということで光村図書のものがとてもいいかなと思います。また、学校生活の多様な場면을題材として使っている点、それから、デザイナーの文字の作り方は計算されておまして、この点は子どもたちの興味を引く。書写といえども、21世紀的な視点も盛り込んだ新しい切り口も示しているということで、光村図書出版を推したいと思います。

○小町教育長 それではお諮りいたします。書写につきましては、皆さん光村図書ということでございますので、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、書写については光村図書出版といたします。

続きまして、社会(地理的分野)でございます。小林委員、お願いします。

○小林委員 地理的分野は帝国書院のものが写真とかグラフがとても多く感じて見やすいと思います。ただ、それに反して文章が行間が狭くなってしまって絵が大きいので、少し工夫が必要かなと。でも中学生ですので老眼はいないでしょうから読めなくはないという、特に問題は感じません。それから流れが、やってみよう、確認できる、確認しよう、説明しようというふうなことでできています。それとコラムが多くて、地理プラス、「未来に向けて」「技能をみがく」というようなちょっとテーマは違いますが参考になるようなコラムが多いと思いました。地理に領土問題がどれも出ていますが、領土問題には歴史的な背景は欠かせませんので、地理といえども、それに触れられていたところは良かったかな

と思います。あとQRコードですけれども、「NHK for School」にリンクしているんですね。自分で勉強しようと思ったら、とても参考になる内容だと思います。あと問題が出てくるので、これは家庭学習で自分で勉強するときに教科書の内容を復習する、確認するときにこれがとても役に立つのではないかと思います。

それから東京書籍もよかったですね。とても見やすく、節ごとに基礎・基本のまとめ問題があって、まとめ活動というのがとてもおもしろくて、例えば先生になって小学生に教えてみようとか、ポスターをつくってみよう、ディレクターになってみよう、旅行プランを立てよう等々、いろいろな興味を引くような活動を取り上げています。それとページの右下にチェックとかトライという項目がありまして、そのページの内容をチェックしたり、挑戦したりというようなことが、小さいほんの何行しかないですけれども出ていて、これは学びが定着するように活用できるのかなと思いました。あとは、コラムはこちらも興味深い内容がありました。QRコードですけれどもDマークというのがありまして、個々にQRコードがあるのではなくて、Dマークの中に幾つも項目があってそこで調べるという形です。復習のために、ほかの教科とか過去の教科書に出ていたようなものがQRコードで調べられるという、これも便利だと思います。

どちらかというと、授業の流れがスムーズかなと、あとQRコードを活用しやすいのかなということで、帝国書院がいいかなと思います。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 社会全体的にそうなのですけれども、一冊の中にたくさんの情報が入っている、とてもいろいろな情報が入り過ぎている、これはしょうがないと思います、それだけ情報をいっぱい入れようということがあります。どうしてもでしたら、その中で見やすく分かりやすいということをまず第一に考えたときに、私は、グラフにしる、地図にしる、いわゆる今までの教育の中で一番分かりやすいのが帝国書院の地図に関する表現であるというように思っております。小さい中でもいろいろな情報が整理されて入っているというように感じましたので、社会の地理的分野では、帝国書院が私としては圧倒的な力をもっていいのではないかなと感じました。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 地理の場合には、やはり帝国書院のものが地図や写真やグラフなどの資料が今、伊藤委員がおっしゃったように、見やすく充実していますし、「振り返ろう」とか「技能をみがく」といったページもとてもよくできているのでいいと思います。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 社会(地理的分野)、4者ございます。その中で、拝見させていただいて帝国が望ましい、そのように思いました。理由としては、帝国は、教科に関する主な内容について、単元を貫く問いとして「章」の問いの設定がありました。これは非常に大事なことだと思います。見方・考え方の概念、この中にイラスト付きで巻頭にまとめて示してあり生徒に分かりやすく工夫されておりました。教育課題への対応としては、小中連続で「探求してみよう」

のコーナーで、生徒に振り返りを与える機会を設けています。こういう工夫もとても大事だと思います。先ほど小林委員からも出ましたように領土関係の問題ですが、帝国の場合ですと「北方領土」が11行、「竹島」が9行、「尖閣諸島」が13行で、特設ページは特に見当たりませんでした。特別支援、ユニバーサルデザイン、カラーユニバーサルデザインなどの取組が非常に見やすく、読み間違いがないようにユニバーサルデザインフォントを採用していました。こういうところの工夫もとてもよいと思いました。

さらに、家庭学習への対応としては、ホームページに「学習支援コンテンツのご案内」として、1学期分のワークがありました。これはPDFの掲載も工夫されていました。このPDFというのはポータブル・ドキュメント・フォーマットの略です。文章をそのまま電子化したものでございます。こういう工夫もとてもよいと思いました。その上で、概念を説明する場合に二次元コードアニメーションがありました。これがあることによって家庭学習に配慮して取り組みやすいなと思いました。

以上のことから、本市の生徒の実態を考慮するならば、帝国が望ましいと判断いたしました。

○**小町教育長** では私も述べさせていただきます。私も帝国書院を推したいと思っています。各ページに学習課題と振り返り、発展的な課題が配置されています。そういう構成になっていまして、それぞれの項目が地理的な知識の習得だけではなく、活用に向けて編集されているというのが特徴ではないかなと思っています。知識技能は活用に向けてどうそれを活かしていくかというのが新学習指導要領のポイントでございますので、そういった考え方にも沿っているかなと思います。また、各委員ご指摘の地図や写真が見やすくレイアウトされている、これはやはり地理的分野におきましては大変大きなポイントかなと思ひまして、帝国書院を推したいと思います。

○**小町教育長** それでは、お諮りいたします。皆さん帝国書院ということですので、社会(地理的分野)につきましては、帝国書院とさせていただきますよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○**小町教育長** 異議なしと認めます。よって、社会(地理的分野)については、帝国書院といたします。

続きまして、社会(歴史的分野)でございます。嶋田委員、お願いいたします。

○**嶋田委員** 歴史は、東京書籍だとか教育出版、帝国書院の教科書、どれも見通しをもって学習ができて、まとめや振り返りもしやすいように思いました。その中でも、東京書籍が地域の歴史を調べようですとか課題を解決しようというところが深い学びにつながるように思います。

○**小町教育長** 小林委員、お願いします。

○**小林委員** 私も同じく東京書籍がいいかなと思ひました。地理、歴史、公民、みんな右ページのところに「チェック&トライ」みたいな小さなコーナーがあつて、そこで復習とか確認ができる、それぞれ確認ができるというのがいい構成になっていると思います。それから左

の下側に年表が各ページについていて、今どこを学んでいるのかというのが分かるようになっていて、あと、地域の歴史を調べようというところが分かりやすいので、立川の市民科にもつながる学びができるのではないかなと思いました。「もっと歴史」というコラムがおもしろいものがいろいろありましたし、それとDマークは先ほど言いました地理と同じパターンで、問題がついているので家庭学習に有効に活用できると思います。

そしてもう1つ、帝国書院ですけれども、前にも言いましたがタイムトラベルという形式で登場人物何人かがタイムマシンのような、鳥のようなものに乗って旅をするというそういう構成になっていますので、自分たちがタイムマシンに乗ってこの時代に行ったらどういふふうを感じるか、どういふ見方ができるかということで、そういう仕組みに工夫をされていると思います。これはいい点だと思います。あと年表がページの右横についていて、これもどこの時代を学んでいるのかというのが分かるようになっていて、そこもいいところです。コラムも充実していましたし、QRコードが「NHK for School」という形です。

どちらかといったら、東京書籍のほうが、まあいいかなと思います。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 歴史的分野については7者ございます。その中で、比較検討し調査した結果、東書が望ましいと思いました。

先ほど小林委員から帝国のというお話がありましたが、帝国はご覧になってお分かりのように、小中連携については教科書の冒頭に小学校で学習した内容が歴史の流れで示されていましたけれども、中学校への具体的な学習内容の接続、これが図られていないのが本当にもったいないなと思いました。また、分野関連ではP. 202に「変わる都市と農村」が記載してございます。この中で本文中のどの用語や写真、資料と関連があるのか、生徒にはちょっと分かりにくいように思いました。また学力向上では、扉の章に「章の問い」「節の問い」「学習課題」、これが一度に提示されています。そのために生徒自身が見通しをもちにくいと思いました。P. 105、137、191、211では、難度の高い課題が設定されています。その意味では当市の生徒にとってはちょっと理解するのに時間がかかるな、そのように思いましたし、あと残念ながら一貫性に欠けているんですね。この辺りが一つの課題かなと思います。その上でICTコンテンツのQRコードコンテンツ、この多くが「NHK for School」、これの外部へのリンクなんですね。そのために生徒が自由に操作できるコンテンツが少ないように思われました。

したがって、私はどちらかという帝国書院よりも東書が望ましいと。なぜ東書が望ましいかと言いますと、小中連続では、巻頭において小学校で学習した人物について、歴史の流れを「人物・文化財・出来事」で示しておりました。併せて、P. 6からP. 11に記載されております具体的な活動を通して、中学の学習内容にしっかりつなげているのはよかったと思います。また分野関連では、P. 98「近世の日本」などに見られるように、該当箇所にも3分野関連を付すことによって多面的・多角的な学習が可能になっていると思いました。とてもよい工夫だと思います。さらに学力向上では、章、節、項と単元を通して「問い」が設置されて

おりましたし、生徒自らが立てた探究課題をもとにして、単元を通して主体的に解決できるように工夫されておりました。こういうところの工夫もとてもよいと思います。その上で「チェック・トライ」については段階的に構成されているために、生徒が無理なく学習の振り返りができるんですね。そのために学習内容をより一層定着させることができるのではないかと思います。P.111「みんなでチャレンジ」、P.146から147「まとめの活動」、この中で生徒の学習が深められるように工夫されておりました。ICTコンテンツについてはP.120「鎖国下の窓口」などがありますが、この中で生徒自身が自学自習をできるように工夫されていて、とてもよいと思いました。

以上のことから、本市の生徒のためには、歴史的分野への関心・意欲を高め、基礎的・基本的な学力を身に付ける指導が重要と思います。その意味からも、東書が望ましいと思いました。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 歴史的分野は7者というとても多くの発行者が入っているということ、それから歴史というのは、それぞれの考え方でずいぶん変わってくる部分があるということで、慎重に私も拝見させていただきました。ほかの委員のお話にもありましたように、各ページに年表がついているのは、東京書籍と帝国書院、日本文教出版、教育出版の4者がありまして、その中でどこの部分を学んでいるかということが分かりやすいということは確かですし、教育出版は下ではなくて頭の部分にありますので、そのほうがある意味では分かりやすいのかなと私は感じました。それからバランス的には、やはり東京書籍、教育出版がいいのかなと感じております。ですから、どちらでもということで、とても悩んでおります。

皆様のご意見を参考にさせていただくと、東京書籍がいろいろな意味でバランスがいいのかなと感じました。

○小町教育長 私からも述べさせていただきます。私は歴史に関しましては、東京書籍を推したいと思っています。各節の冒頭に学習課題が明確に示されていて、次のページには知識の「チェック&トライ」ということで知識の活用のコーナーがございます。主体的に学ぶ際に大変に参考になるのではないかなと思っています。他者に比べまして本文は短めでございます。その代わり関連する資料が多く盛り込まれておりまして、探究的な学習を促すスタイルになっているかなと思っています。また、単元の終わりの学習の振り返りと探究のページがセットになっていて、単に知識を振り返るだけ、確認するだけではなくて、それをもとにして発展的な学習をしていこうという、そのような構成になっている点も大きなポイントになるかなと思ひまして、歴史的分野に関しましては、東京書籍を推したいと考えています。

○小町教育長 それではお諮りいたします。社会(歴史的分野)に関しましては、東京書籍ということによろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、社会(歴史的分野)につきましては、東京書籍と

いたします。

続きまして、社会(公民的分野)でございます。田中委員、お願いします。

- 田中委員 社会(公民的分野)でございますけれども、6者でございます。各者とも様々工夫されて素晴らしいですが、私としては、拝見させていただいて東書が望ましいと思えました。その理由といたしましては、小中連続について、各章の扉に小学校社会科の学習を振り返る内容やマークが記載されています。そのために既習項目を踏まえて学習内容を見通せるように工夫されていてとてもよいと思えました。また分野関連では、P.46「平和主義の意義と日本の役割」、ここでは政治・経済などの3分野を通して生徒が多面的・多角的な学習ができるように工夫されておりました。とてもよいと思えました。P.187「国際連合の仕組みと役割」、P.210から211「はちみつの争い」、これらを通して本文中に「見方・考え方」のマークが付してあります。そのために学習が深められるように工夫されていた点はとてもよいと思えました。これらのことから、必要な情報を取り出す、資料を比較関連付ける、推論する、このことが可能になると思えました。さらに、ICTコンテンツでは、P.109 立法・司法・行政の「三権の抑制と均衡の関係」、このようなことが全て自作で、生徒がつまづきやすいポイントが用意されておりました。そのため生徒の自学自習に適していると思えました。

以上のことから、今後、本市の生徒の学力向上の課題と対応策を考慮するならば、東書が望ましいと思えました。

- 小町教育長 伊藤委員、お願いします。

- 伊藤委員 公民的分野に関しましては、私は圧倒的というか、ほかのところと比べてみても東京書籍の教科書が一番立川の子どもたちには合っているのではないかなという気がしております。いろいろなところに関して考えさせるような表現も出ておりますし、新しいいろいろな表現も出ておりますので、是非、私は東京書籍を推したいかなと思っております。

- 小町教育長 嶋田委員、お願いします。

- 嶋田委員 私は教育出版のものも現代的な課題を押さえてありますし、「地域のルールを考えよう」「地方議会ウォッチングに行こう」「まちづくりのアイデアを提言しよう」などと、地域とのつながりを意識した提案も多くしてあるのがいいところだなと思えました。

また、東京書籍の教科書もイラストなどをうまく使って子どもたちがイメージしやすいように身近な問題に置き換えたりする工夫がしてありまして、話し合い活動をしやすいように、様々な思考ツールを使って考えを深められるようにできていると思います。

- 小町教育長 小林委員、お願いします。

- 小林委員 公民という科目は中学になってから初めて学ぶというか、言葉が出てくるのは多分、小学校ではなかったことかと思えますけれども、これは社会との関りを意識してもらう大切な教科で、なるべくスムーズに、難しくなく、親しみやすく学んでもらいたいなと思いつながりながら教科書を見させていただきました。

東京書籍はイラストがたっぷりありますし、写真、図とか、そういうものがふんだんに使われていました。それから章の導入のところで、まず考えるという活動をさせるようになって

ています。それは、まず考えて答えを知りたい、どうなんだろうという気持ちを芽生えさせて次の授業に入っていく、学習探求、追求、解決、まとめというようなそんな流れになっていますので興味を持ってもらえるような進め方をしていただけたらなと思いました。あと、「もっと公民」というコラムがありますけれども、ここでも興味を持たせるような内容、情報化による変化とか、震災後の復興についてとか、オリ・パラのおもてなしの精神とか、そういうような内容のものたくさんありましたので、それはいいことだと思いました。

それから教育出版のほうも、嶋田委員が言われたように、話題がすぐタイムリーな、今風なものが入り入れられていると思いました。

ただ、東京書籍は本当に工夫がされていて、とても良いと思いました。

○**小町教育長** 私も述べさせていただきます。私は公民に関しましては、東京書籍ということで推したいと思います。各節ごとに冒頭に学習課題を明示いたしまして、次のページで知識の確認というところ、それからトライというところでアクティビティを促す課題を出す、共通のスタイルになっています。子どもたちが見通しをもって学習する上で共通のスタイルでそれぞれの単元を進めていくことはとても大事なかなと思います。取り上げてある資料も豊富でございまして、生徒の興味・関心を広げやすい構成となっています。また最後のほうに「みんなでチャレンジ」というところがございまして、これは地域課題を把握し、課題を探求し、意思決定し、提案、参加して課題解決にあたるという、そういう学びをする部分でございすけれども、これは本市が今、小中学校全校で中学校区ごとの地域というものをしっかり大事にしながら取り組んでいる立川市民科の学習とも大変重なる部分が多いかなと思っています。公民的分野に関しましては、そういった意味でシティズンシップ・エデュケーション、市民性を育てるといふ部分も大変重要になってきているなと思ひまして、それにも対応できている教科書は東京書籍ではないかなと思います。

○**小町教育長** それではお諮りいたします。社会(公民的分野)につきましては、皆さんのご意見、東京書籍ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○**小町教育長** 異議なしと認めます。社会(公民的分野)につきましては、東京書籍といたします。

次に、地図でございす。伊藤委員、お願いします。

○**伊藤委員** とても歴史のある帝国書院に対して、東京書籍が新しい形でというふうに入っているというのがよく分かるような2者でございす。新しいところがいいかなと思ひつつ見ているのですけれども、何しろ一定の情報量がとてもきれいに入っているということで、決定的に私は帝国書院がいいのではないかなと思ひております。

○**小町教育長** 小林委員、お願いします。

○**小林委員** 帝国書院は少し縦に長い判になっていまして、その分、地図が面積の広い部分は広く見られるというように思ひました。比べてみますと、同じ地図のところでも帝国書院のほうが、色が明るくて文字が見やすいですね。そういうところからも、もちろん資料もとても豊富ですけれども、帝国書院のほうがいいかなと思ひます。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 地図については、帝国と東書、2者ございます。やはり2者の中でも帝国が望ましいなと思います。

東書が非常によくできているのですが、残念ながら幾つか課題があるんですね。1つは、資料が豊富であるために扱うのに非常に難しさを感じる、そういう部分が見られました。また、ページごとに例が載っていないために、地図を読むのが得意でない生徒が理解しづらい、そんなふうに思いました。さらに、巻末の統計資料が帯グラフになっていまして、2色で色分けされています。そのために分かりづらく、かつ地図帳となると分量が多過ぎる、その辺りがちょっと改善できるとすばらしい教科書になるかなと思っています。

その上で、なぜ帝国が望ましいかといいますと、先ほど小林委員からもお話がありましたように、見やすく、使用しやすく、しかも主体的に学べる地図帳としてよく工夫されてとてもよいと思いました。例えば、これまでのAB判をA4判に大判化してあります。そのためにとても見やすくなっています。また、「五つのテーマ」について、特に防災に関する資料ですが、これがとても充実しておりました。具体的に、日本の7つの地方全てに防災に関する資料を記載しています。地形から災害を考察できるように工夫されている点はとてもよいと思いました。また、鳥瞰図の充実、日本の各地方の主題図の中で、自然、人口分布、農業、工業、交通を基本資料として統一を図っていたのはとてもよい工夫であると思いました。そのことは結果として例えば、中学3年生になりますと修学旅行がございまして、そういう修学旅行の事前あるいは事後指導に活用しやすく工夫されていたように思いました。

その上で「問い」の設定がございまして。これによって生徒が主体的に学びやすくなったのはとてもよいと思いました。さらに、QRコードコンテンツあるいはデジタル教科書に関しては、「NHK for School」の映像資料、あと、世界の主な州があるのですが、その州別衛星画像を取り上げておりました。これだけしっかり取り上げてある地図帳というのは本当によく考えてお作りになっているなと思います。二次元コードによって広い資料活用が可能になるように工夫されておりました。

以上のことから、本市の生徒の現状を踏まえ、選定検討委員会及び調査研究部会などの意見をもとに考慮するならば、地図帳としては、日本と世界の理解が深まる、誰でも見やすく使いやすい、資料を活用する能力を高め、主体的に学べる、これができるのは帝国ではないかと思っています。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 どちらもデータブック的な要素を地図上に盛り込んだものなど、資料として充実していて、とてもいいなと思いました。ですが、やはり帝国書院のほうが大きさや紙質や色合いもあって大変きれいで見やすいなと感じます。地図の場合は大きさも重要なかなと思って見させていただきました。

○小町教育長 私も述べさせていただきます。地図に対しましては、教科書の地理的分野が帝国書院ということで、その連携の中で地図が活用できるというふうに思っています。地図の

スタイルも教科書と一緒にということでございまして、各委員ご指摘の見やすい、分かりやすい地図ということでございます。そういった教材としての役割がある部分が地図であると考えますと、私も帝国書院がよろしいかなと思います。

○小町教育長 それではお諮りいたします。地図につきましては、帝国書院ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、地図につきましては、帝国書院といたします。

続きまして、数学でございます。小林委員、お願いいたします。

○小林委員 数学を学ぶと、どういうメリットがあるのかというようなことを数学が苦手な私がよく思っていましたけれども、数学と生活がつながっているというところ、実生活に活かせるんだということが何となく分かればいいかなという思いを持っております。

それで東京書籍の例題を見ますと、とても身近なものが出てきていて、図形だったらパッチワークとか、大縄跳びの並び方はどうしたらいいとか、比例のところへいくと、行列の待ち時間はどうなのかとか、そういうパツと思ひ浮かぶような例題が出てくるので、そこはとてもいいところだと思いました。あとはレイアウトなども分かりやすくてきれいですし、色が枠だけでなく枠の中全体に色がついているというところが他のところと区別しやすいという印象をもちました。家庭学習にも配慮されていて、星印がついているので、コロナがどうなるか分かりませんが、そういうときにも活用しやすいのかなと思います。

あと、巻末が充実していて、1年生からの復習が巻末に出ているんですね。なので、途中でちょっとつまづいたときに、「あっどうだったっけ」というふうに過去を振り返るのにその綴じ込みがとても便利なのではないかと思いました。あと、ノートの取り方ってとても大事だと思いますけれども、「数学マイノート」と実際の例が出ていましたが、これを見てあまりにも美し過ぎて、私は無理だというふうに思ってしまった。なので、子どもたちも理想のノートは大事ですけど、これに近づけるようにというような指導をしていただけたらなと思いました。

数学は教育出版も気にはなったのですけれども、数学の広場というとても興味を引くようなコラムとかがありまして目がいったのですが、全体的に見て東京書籍のほうがいいかなという気がいたしました。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 数学については7者ございます。その中で東書が望ましいと思いました。

実は啓林館のほうがいいのか、あるいは東書がいいのかなと迷ったのですが、啓林館は残念ながら幾つか課題があるんですね。非常にもったいないと思いますが、例えば1年生のP.46「数の世界の広がり」、ここで工夫をされていますけれども、学習課題「自然数を素数の積で表しましょう」、この設定が突然ぱつと出てくるんですね。これによって生徒が非常に理解し難いんだろうと思います。あと、学力向上では、1年生のP.52から55、この中の1章に「章末問題」があります。この項末には「練習問題」を配置しておりました。この中で「入

試問題にチャレンジ」では解答のみで解説が教科書に示されていないんですね。とても残念だと思いました。ICTは、教科書の本文脇にQRコードが配置されておりました。とてもそれはいいと思いますが、ただ、その多くは基本的な使い方の動画や、問題の解説に終始していました。この辺りももったいないなと思いました。あと、1年生のP.197「面を回転させてできる立体」、この中でシミュレーションが自ら設定したり動かしたりできるものがなくて、生徒の意欲を高めるものになっていないように感じました。さらに、「自分から学ぼう編」では、裏表紙から始まる構成になっているために縦読みの構成になっています。このことから、読み進める方向が変わることで、特別支援教育の観点から課題があるのではないかと、そのように思いました。教科書の内容的にはいいところもたくさんあるのですが、今申し上げた4点に課題があったものですから、その意味で私は東書が望ましいと思いました。

なぜ東書なのかといいますと、1年のP.9から11「算数から数学へ」、これは小学校で学習した「かけ算九九の表」、このきまりを見つける活動が設定されておりましたし、特に算数と数学のギャップの解消が図られ、かつ小中の円滑な接続が図られていたのはとてもよいと思いました。学力向上では、1年のP.41「乗法」などでは、例と似た型の問題にダイヤモンドマークがつけてあります。このダイヤモンドマークがつけられている問題で「例」の内容を確実に理解してからその他の問題に取り組めるように、スモールステップの構成がされていました。とてもよい工夫だと思いました。

また、巻末の解答には考え方のほかに説明のポイントなど詳しく解答が用意されており、自学自習にも適しているように思いました。ICTでは、QRコードからアクセスして利用できるコンテンツ、Dマークですが、生徒が自学自習するのに豊富な分量が用意されておりました。さらに全体の構成、色づかいですが、色の枚数も絞られておりましたし、ユニバーサルデザインにも配慮されておりました。とてもよいと思いました。

以上のことから、本市の生徒主体の観点から検討して、東書が望ましいと思いました。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 私は啓林館の教科書も子どもたちがイメージしやすい題材を多く扱っていること、それから、うしろから「自分から学ぼう編」が始まっていて、わくわくするようなインパクトがあっておもしろいなどは思いましたけれども、今、田中委員がおっしゃったように、うしろから始まっていることに戸惑ってしまう生徒もいるかもしれないなどは思います。

東京書籍の教科書は、単元、単元で問題解決の見通しをもったり、友だちの考えと比較して話し合ったり、自ら問いかけるということを意識して、最初に考えさせるということさせようと意識してつくられていると思います。シンプルで詳し過ぎないことで自ら考える力をつけようとしてくれていると思います。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 数学の教科書につきまして、前に習ったことをうまく利用できるかどうかということがとても大きな要素ではないかなと。つまり小学校からのずうっとの蓄積によって、例えば九九が分からなければとか、分数が分からなければ次のステップになかなかいけない、

いったとしても分からなくなってしまうというような形があるのではないか。これは算数とか数学や理科の少しの特徴であるとは思いますが、その辺で東京書籍のものはとても分かりやすく、また、分からなくなったときに前に戻ることができやすいのではないかなという、少し感じがいたします。

ですから私は、この中では東京書籍の教科書が一番立川の子どもたちには合っているのではないかと考えます。

○小町教育長 私も述べさせていただきます。数学に関しましては、東京書籍を推したいと思っています。前回は申し上げましたとおり、立川市の子どもたちは本当に多様な子どもたちが同じ地域ということで一つの学校に通って来るということでございます。その多様性の中で自分の可能性を様々に広げていくというのが本市の教育の一つの特徴であると前回申し上げましたけれども、そういった意味でいうと、数学に関しましては学びのステップが、要するに過程が丁寧である必要があると思っていて、そういった意味でいうと東京書籍はその部分を丁寧にステップを踏んでいると、子どもたちの学びに寄り添っているという工夫がされているかなと思います。

また、キャラクターや色づかい、それぞれ各者工夫がありますけれども、東京書籍の場合は多過ぎずということで、そこのコントロールがうまく効いている教科書になっているかなと思っております。また、解説文に関しまして、小学校で算数が苦手な子どもも理解が深められるよう、そういった配慮がされている構成となっているかなと思っております。それから、各委員ご指摘の実生活の中で様々な場面で数学を活かすということも触れられていることはとてもいいかなと思います。これは本市が進めております教科横断的な学びという面も共通する、単に数学は数学の時間だけで終わるのではなくて、他教科、例えば立川市民科で取り組んでいる場面の中でも数学的な思考を応用できるというような部分もございまして、そういった面でいうと生活の中にも数学的な話題があるんだということを教科書の中で示していただいていることはとてもいいかなと思います。

よって、私は数学に関しましては、東京書籍を推したいと思っております。

○小町教育長 各委員の皆様、東京書籍ということでございますので、数学に関しましては、東京書籍ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、数学に関しましては、東京書籍といたします。

次は理科でございます。嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 理科は東京書籍の教科書が「レッツ スタート！」から始まって学習していく流れがあって、ポイントとかコラムとかも充実していて、単元ごとの学習内容の整理といったところもとても見やすくまとまっているように思います。調査研究部会の調査結果で、ほかの教科書の記載も少しずつ心配な点もあるように思えるので、そこから考えても東京書籍がいいように思います。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 私も東京書籍の教科書がいいのではないかなと思っております。全体的にバランスがとれておりますし、学習のポイントというか、こういうところを学んでいこうというのが、とても分かりやすく、うまく押さえられているのではないかなという気がいたします。

あとは教育出版の実験に対するやり方の丁寧さというところは少しいいところではあるかなとは思いますが、小学校の理科ですとその辺はとても重要な部分になっておりますけれども、中学校になりますと全体的な内容の分かりやすさということも含めまして、東京書籍の教科書がいいのではないかなと思っております。

○小町教育長 小林委員、お願いします。

○小林委員 私も東京書籍がいいと思います。こちらは子どもたちに本当に理科に興味を持ってもらいたいというような思いがとても感じられる教科書です。写真などもとても大きくてきれいで美しい、イラストもかわいくて多用してありますし、子どもたちが、きれいだな、いいなというふうな思いを抱くような教科書になっているかと思います。そして、from Japan 世界につながる科学、これは日本の科学が世界ではどういうふうにリードしているみたいな内容のコラムですけれども、幾つか出ていますが、スカイツリーのこととかiPSとか、いろいろ日本の誇る科学というようなコラムが載ってまして、子どもが興味を持ってくれたらいいなと思いました。

あと、伊藤委員が言っていましたけれども、実験のところの「決まり」、私は、東京書籍は分かりやすいかなと思いましたが、あと、問題みたいになっていて間違い探しというところであるので、考えながら学べるという気がいたしました。单元ごとに学習が簡潔に整理されていて、流れがはっきりしていて、問題、発見、課題、考える、観察、実験、結論、活用というふうな流れがしっかり明示されていていいかなと思います。最後に「未来への科学」とか「私たちとつながる科学」とか、教科書のページを開いたときに、一番最初と一番最後と、またそこが見せるととても魅力的なページになっていると思います。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 理科については5者ございますが、私はその中で東書が本市の生徒には望ましいと思います。理由としましては、東書は内容として、学ぶ意欲・表現する力を身に付けるように工夫されておりました。特に探求型の学習を重視していたのはとてもよいと思いました。そのために生徒の興味・関心を引き出す内容になっております。基礎・基本の習得では、章末、単元末に用語の整理をしておりましたし、そこで「確かめと応用」の演習問題が示されておりました。これによって基礎・基本の定着を助けるための工夫が見られました。とてもいい工夫だと思います。また、小学校の既習学習が記載されておまして、学習の連続性を意識できるようになっていたのはとてもよかったと思います。

その上で、全体の構成ですが、見させていただいて、科学的な思考力を育むために意図的に明確に構成した配列であるなと思いました。特に生徒の発達段階を考慮して、事物あるいは現象についての説明文が適切な分量になっておりました。その上で本文に下線を引き、関連事項を参照できるように配慮されていたのはとてもよいと思いました。構成上の工夫では、

全体的に写真や図が明瞭で見やすく、かつ分かりやすくなっておりました。全体的には、基本的な器具を用いた実験が多く取り扱われており、観察・実験の留意点などがまとめられて丁寧に記載されていたのはとてもよいと思いました。

以上のことから、本市の生徒は「必要な情報を取り出したり、比較関連付けたりする科学的な思考、表現する」、このことが課題になっているんですね。実は学校訪問でその辺りの課題については注視してきたわけですが、その課題を克服する意味でも、東書がよいと思いました。

○小町教育長 私も述べさせていただきます。理科について、本市の子どもたちに関しましては、小学生の段階では意識調査の中でも理科が好きだという子どもたちは大変多いですけれども、中学になると、とたんに理科が嫌いだというような意識調査のアンケートが出てくるわけでございます。そういった面でいうと、興味・関心を中学生におきましてもしっかりと喚起する、そういった部分が教科書といえども、必要な部分かなと思っています。

そんな意味で東京書籍の理科におきましては、科学の歴史に関しまして漫画仕立てで示されております。漫画にすることによりまして、理科の様々な分野で功績を上げたそれぞれの先人が、とても身近に子どもたちにとって感じられるのではないかと考えていまして、理解促進に役立つかなと思います。また、「科学の本だな」というのがそれぞれついておりまして、これも教科書と違うアプローチの中で理科的な分野も学べる、そういった配慮がされている部分かなと考えておりまして、子どもたちにとっても興味・関心を広げながら理科を学ぶということをしつかりと捉えているかなと思います。そういった興味・関心を喚起するという仕掛けをしつかりとしつつ、内容に関しましては大変に分かりやすい構成となっております。それから実験から分かったこと、課題に対する結論、学び、結論で終わりではなくて、学びを活かして考えよう、この一連の学習のプロセスということで見開きページを有効活用して見やすくレイアウトしているといった面で、立川の生徒にとっては東京書籍の理科は理解を図りやすいかなと思います。私は東京書籍を推したいと思います。

○小町教育長 皆さん、理科に関しては東京書籍ということですので、お諮りいたします。理科については、東京書籍ということによろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、理科につきましては、東京書籍といたします。

続きまして、音楽(一般)でございます。伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 音楽は2者ですので、どうしても比較という形で考えてしまいます。どちらもとても分かりやすく、それぞれの特徴がよく出ているいい教科書なのではないかなと考えました。ただ私、一番この中で何をメインに考えたかという、教えやすいのはどちらかなというところを少し考えてみました。そうすると、本当にどちらかというとはすけれども、教育芸術社のほうが少し教えやすいような、専門家からのアドバイスも含めまして、いいのではないかなと思いました。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 今、伊藤委員からも説明がございましたように、音楽(一般)については2者の中で教芸が私はよいと思いました。その理由については、内容としてQRコードの中に作曲者についての調べ学習をするなど、家庭学習のために便利に工夫されていたのはとてもよいと思いました。また、構成上の工夫としては、考えさせたい場面などでイラストを用いた会話形式で表現してありました。とても分かりやすく工夫されております。また、創作・鑑賞などにおける挿絵及び現在活躍している演奏家の写真がとても分かりやすく掲載されておりました。このことによって生徒の興味をそそるのではないかと、そんな内容の教科書であったと思います。その上で、「音楽を形づくっている素材」が教材ごとにまとめられておりました。生徒が活用できるように工夫してあると同時に、全体的には「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫として、特に自分で考える、そして友達と話し合うなどの対話の場面が多く設定されていたように思いました。その上で、生徒にとって学習のねらいや教材の扱い方、これがとても分かりやすく工夫してありました。とてもよいと思いました。

以上のことから、立川の生徒が音楽で生活を豊かにする心を育む、音楽科の確かな学力を育む、そしてより主体的・対話的な学習を引き出し、深い学びを促す、このような観点から、教芸が望ましいと思われました。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 教育出版のほうは創作活動がなかなかおもしろいなど。それから、作曲家の年表が分かりやすいなど思いました。ただ、バッハは「音楽の父」ですので、やはりもう少し説明があったほうがよかったかなと思いました。

教育芸術社のほうは、歌唱法や指揮法がとても分かりやすく、指揮者の山田和樹さんのコメントも良かったですし、鑑賞の部分もよくまとまっていると思います。楽譜が多くて見やすいことも、やはり音楽は楽譜がたくさんあるのがうれしいので、いいかなと思いました。前回、副教材と被っていない伴奏付きの楽譜を増やしてほしいと発言しまして、それは変わらないのですけれども、先生によっては「副教材と被っていて、伴奏のない楽譜をあえて使いたい」ということも、聞いてみないと分からないのですけれども、あるのかもしれないなとは思いました。

○小町教育長 小林委員、お願いします。

○小林委員 音楽って本当に幅が広くて、楽器でも何種類もあるし、曲も歌も何種類もあるし、いろいろなジャンルがあるしで、中学の時にどういうものに触れたかによってその人の人生がもしかしたら変わるかもしれないというような気が私はしています。というのは知り合いが中学の時にある楽器をやってみて、それがすごく気に入って今プロになっているという人がいますので、出会いというのがとてもそのいい機会に音楽ってなるのではないかなと思って、そうしますと、できるだけたくさんのもに触れられる時間、教科になってほしいなという思いがします。

教育芸術社のほうが、そういう意味でもいいと私は判断しています。例えばポピュラーに

関してもかなり扱いが違ってしまっていて、教育芸術社のほうはジャンル別にレコードのジャケットがあったり、昨年映画がヒットしたクイーンが載っていたりとか、興味を引くような興味深い内容になっているかと思います。そういう意味で「音楽教育とSDGs」というテーマもありますし、著作権の部分では漫画ですごく分かりやすくなっています。あと、メディアの変化で、蓄音機とかレコード、カセット、ウォークマンみたいなものの写真が載っていました。多分本物は知らないと思いますが、こういうものも目を引きまします。

あと、日本の歌ですけれども、歌いつごう日本の歌というのが、多分私の年代で知っていても今の子は知らないとてもいい日本の歌というのがあるかと思いますが、それは私としては歌い継いでほしいという思いがありまして、この教育芸術社では各学年が5曲ぐらい取り上げています。教育出版のほうは2曲ぐらいですけれども、その差というのがあります。

あとは合唱の準備も詳しく載ってしまっていて、声の出るしくみも詳しいですし、歌う前に曲想を感じ取る練習とか、書き込むような欄が結構ありますので活用できるかと思います。あと、表紙の裏の対談、木下牧子さんと谷川俊太郎さんの「春に」をつくったコンビの対談とか、ユーミンの中学生の頃の話とか、狂言の野村萬斎さんの、日本の芸術に触れるというのでそういう話が載っていたりとか、とてもいい教科書だと思います。

○**小町教育長** 私も述べさせていただきます。音楽に関しましては、教育芸術社を推したいと思っています。ほかの教科もそうですけれども、教育委員会といたしましては現場の声をしっかり踏まえて教科書選定をしたいと思っています。特に音楽の場合は音楽専科の先生方のご意見を大切にしたいなと思っています。そういった面という指導資料として教育芸術社のものが専科の先生方には使いやすいという声が比較的多かったかなと思っています。また、音楽の教科書の役割は、音楽の知識のみならず楽譜等の素材という面も大きいかなと思っています。そういった面という、この教育芸術社は楽譜のページがまとまっておまして、見やすいというところの専科の先生方のご意見が多かったかなと思っています。

よって、音楽に関しましては教育芸術社を推したいと思っています。

○**小町教育長** 音楽(一般)に関しましては、皆さん、教育芸術社ということでございますので、教育芸術社でお諮りしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「はい」との声あり〕

○**小町教育長** 異議なしと認めます。音楽(一般)につきましては、教育芸術社といたします。

続きまして、音楽(器楽合奏)でございます。田中委員、お願いします。

○**田中委員** 音楽(器楽合奏)については2者、教芸と教出がございます。

その中で教芸がよいと思いました。なぜよいのかといいますと、教芸については、様々な音楽文化に触れまして、その良さを感じ取らせながら表現活動ができる、そういう教科書として非常に工夫されていたように思いました。特にP.44では箏の楽譜が縦書きで使いやすくなっています。P.56では打楽器の項目の記載が増えておりました。現在使っている教芸の教科書と比較しますと、今回新しくお作りになった教科書の中で打楽器が増えていきます。また、楽器の演奏の仕方を身に付けやすい楽曲と現代アーティストが作曲した楽曲の両方を記載し

ておりましたし、それによって立川の生徒にとって親しみやすく、かつ演奏への意欲が期待できるのではないかと思います。また、やさしい独奏曲及びグループで楽しめるアンサンブル曲を数多く選曲しているために、生徒の関心が高まるのではないかと、そのように思いました。なお、あえて課題を挙げれば、和楽器の練習曲数がもう少し多いとよかったかなと思います。

以上のことから、立川市の生徒が様々な音楽文化に触れ、そのよさを感じながら表現活動ができること、そして音楽の幅広い知識や技能を確実に得られるような写真や図版を用いて、情報を役立てながら学べること、さらに、より主体的・対話的な学習を引き出して、課題意識をもって深い学びを促すこと、このことから教芸がよいと思いました。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 器楽は、やはり教育芸術社の教科書がいろいろな打楽器の記載が多くあって、また、アンサンブルの楽譜が豊富ということで、アンサンブルの楽譜はいろいろな楽器に応用して使えますのでいいと思います。それからギターについて、高校では音楽の授業で扱ったり、軽音部に入る子も多くて、卒業後に触る可能性が高い楽器だと思うので、クラシックギターとフォークギターの違いなどももう少し詳しく載せていただくとありがたいかなと思いました。

○小町教育長 小林委員、お願いします。

○小林委員 どちらも和楽器を丁寧に詳細に載せてありまして、それはいいですけども、教育芸術社のほうは曲選び、曲はお箏の曲で、日本の古来のお箏の曲プラス今の曲、「少年時代」とか「夏祭り」、中学生が知っているような曲がお箏でもひけるんだよということが分かるという記載がありました。楽譜が載っていました。篠笛でも「もののけ姫」が吹けるんですね。私もびっくりしましたが、とても興味深いことでありました。あと、バンドの楽譜って見たことがなかったのですけれど、バンドスコアが載っていたりとか、若い人たちが興味がありそうなことを結構取り上げているので、教育芸術社がいいかなと思います。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 私はこの辺は強くありませんので、読みながら、ああそうなんだ、そうなんだ、この辺はおもしろいよね、というように素直に感じられるほうがいいかなというふうに、そんなところで感じてしまいました。教育芸術社のほうを推したいと思っております。

○小町教育長 私も述べさせていただきます。器楽合奏に関しましては、これまで専科の先生方の声は教育芸術社を推す声が多かったかなと思っています。その理由といたしましては、器楽合奏も音楽(一般)と同じように教科書以上に合奏のための楽譜だと素材としての役割が大きい、そういった意味でいうと楽譜のバックが白で統一されているというのは演奏する上で大変に見やすいんだという声がありました。それから、楽器が様々載っていますけれども、その楽器全てが学校にあるわけではないので、その楽器の大きさがなかなかイメージできない場合もあるわけですが、そういったところを写真の中で比較、楽器を並べて楽器の間が大きさを計算されている点、そういった面で教育芸術社が使いやすいとい

う現場の専科の先生方の声を受けまして、器楽合奏に関しましては、教育芸術社を推したいと思えます。

○小町教育長 それではお諮りいたします。音楽(器楽合奏)につきましては、教育芸術社ということによろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって音楽(器楽合奏)につきましては、教育芸術社といたします。

続きまして美術でございます。小林委員、お願いします。

○小林委員 美術は光村図書がいいと思いました。一番最初に、美しいという谷川俊太郎の言葉があって、導入の解説、様々な美しさの写真が載っていてそれがいいかなと、美術というのはそういうものだということを感じさせてくれる導入でした。あと、みんなの工夫ということで生徒の作品もその過程が載ってまして、ちょっと苦手だなと思うような子でもそれを見ながら挑戦できるというふうな、そのページがいいかなと思います。

あと、美術の教科書は目で見るということが大事ですので、見たときの効果ですね。ページ裏の見開きをさらに広げられるというページがどこにもありますけれども、それが一番効果的に使われているのが光村図書ではないかと思います。広げたときの大きさを効果的に活用している「風神雷神図屏風」とか「ゲルニカ」とかゴッホとか浮世絵とか、その辺がすごく目に焼き付くような印象的なページです。あと、いろいろ工夫がされていまして、版画のところを紙質を変えて版画っぽくしていたりとか、「最後の晚餐」の絵ではトレーシングペーパーがあったりとか、「鳥獣人物戯画」のところを漫画と絡めて「火の鳥」になっていたりと、いろいろと工夫が見られて子どもたちが興味を持って取り組めるような教科書になっていると思います。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 美術の教科書につきましては、当然美しくなければいけないというような感じがございますので、これはもう3者とも本当に工夫をされ、とてもきれいな表現をされているので、どれも選び難いなという感じがします。一応基準として考えさせていただいたのは2つの点があると思います。1つは、美術が好きな人に新しい発想を与えることができるような教科書であるかということと、美術がそんなに好きでない子に興味を持たせるというような、その2つの点で細かいところに配慮しているところでは、やはり光村が一番良かったのかなと感じました。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 美術については、開隆堂、光村図書のものがシンプルで見やすく、どんな子でも使いやすいのかなというふうに思います。

光村図書のものだと国語の教科書にも「最後の晚餐」が取り上げられていて、書写なども同じ芸術分野ということで教科横断的に使うようなことももしかして、先生方の連携次第ですけれども、できるのかなというふうに思いました。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 美術については3者の中で光村がよいと思いました。光村は美術に気づく目を養いながら、豊かな感性を育む教科書としてとても工夫されていたように思います。特にP.64では学習の流れが分かりやすく、かつ基本スキルをしっかり押さえています。そのために制作と鑑賞のバランスも非常に考えた教科書として工夫されていたように思います。また、レオナルド・ダ・ビンチの「最後の晩餐」に、トレーシングペーパーで書き込みながら進めることができるなど製本が工夫されている点はとてもよいと思いました。P.36では「鳥獣人物戯画」とあわせて手塚治虫の「火の鳥」を折り返して比較できるように工夫されておりました。とても心づかいをされた教科書であると思います。内容的には、題材ごとに学習目標を明確にしなが、表現、鑑賞の項目では共通事項が生徒に分かりやすく表記されてとてもよかったです。構成上の工夫としては、特別な材料を使用しないで、身近に感じられる題材を設定していたのもよいと思いました。生徒自身の発達段階に応じて工夫できる題材を設定されていたのもよいと思います。さらに、主となる図版、サポートにあたる図版や表の配置が適切にされておりましたし、生徒の理解を促すにはよい工夫だと思います。

その上で、立川の美術の先生方の声を聞きますと、学習の流れが分かりやすく、基本のスキルを押さえている、プロジェクションマッピングなど現代的な内容を取り上げていて、制作と鑑賞のバランスが考えられている、このような教科書として光村を推薦しております。そういうことも含めて、光村がよいのではないかと思います。

○小町教育長 私も述べさせていただきます。美術に関しては光村がいいかなと思います。学習の流れが分かりやすく示されておりまして、美術に関しますスキルも指導できるように押さえられているのが大変いいかなと思っています。また、美術の教科書は生徒の興味・関心を引き出すという素材集でもあるかなと思います。そういった点から21世紀、新しい美術の分野でございます映像を使った美術というようなところもチームラボという今話題になっているアート集団を取り上げたりして、またプロジェクションマッピング、そういったのを取り上げるなど新しい角度から美術を取り上げている、これも生徒の興味・関心を引き出す、そんな仕掛けがされている教科書ではないかなと思いますので、美術に関しましては光村図書を推したいと思います。

○小町教育長 皆さんの声は光村図書出版ということですので、美術に関しては光村図書出版ということでもよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、美術に関しましては光村図書出版といたします。

続きまして保健体育でございます。嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 大修館の教科書は話し合い活動もできて、スマホ首とかスポーツ障害など、中学生にやりがちな体の不調に対する記載もありますし、ストレスに対する対処法「クローズアップ 悩みに上手に対処しよう」というところがとても丁寧で、思春期で反抗期の子どもたちにはとてもいい教材になると思います。

それと学研の教科書も自然災害について詳しく載っていたのと、探究しようよなどのテーマ設定などが良くできていました。

○小町教育長 小林委員、お願いします。

○小林委員 大修館の教科書は写真とかイラストが多くて見やすく、今、皆さんが関心のあがる感染症のところ、コロナという言葉は入っていませんけれども、感染症に対する対策とか、マスクをなぜつけるのかとか、載っていることが今の状況にピッタリで、皆さんが行わなければいけないようなことがちゃんと載っていますので、これはタイムリーだなと思いました。このことを知っておけば感染症も防げるということを改めて学びました。あと、話し合うとか、「きょうの学習」のまとめの問題があったりとか、自発的に学習するという事に結び付けるような仕組みになっているかと思います。

もう1つ、大日本図書のほうは、見開きで完結していてとても見やすくなっていて、章ごとに「学びを活かそう」というコーナーの記入するところがあるので、それは効果的かなと思いました。あと、中学生には心配な薬物、私は保護司をしていますので特に気になるのですが、薬物、飲酒、喫煙、そのきっかけの恐ろしさとか断り方を細かく載せてあって、その部分が印象に残る教科書ではありました。けれども、2つ比べて見まして、大修館のほうがいいかなと思います。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 保健体育については、4者の中で大修館がよいのではないかと思います。

大修館については、関心や学習意欲を引き出し、気付きや思考を促すような教科書として工夫されていたように思います。特にP.90、105では、先ほど出ました感染症含めて、現代的問題を取扱い、よく詳細に記載されておりました。とてもよいと思いました。また、前半が体育理論、後半が保健の順に配列されておりましたし、「この教科書の使い方」と「保健体育の学び方」の内容もとても充実しております。学習が効果的に進められるように配慮していたことはよいと思いました。さらに、P.3、P.92では他教科との関連も示されておりましたし、教科横断的な学習に結びつくようになっておりました。

各巻末の「章のまとめ」では家庭学習にも対応しておりました。とても大事なことだと思います。その上で、テーマごとに本時の学習課題と学習のまとめにつながりが見られ、ポイントが分かりやすく構成されているために、家庭学習としても振り返りしやすいように工夫されていたのはとてもよいと思いました。全体的には、1時間の学習が「課題をつかむ」で始まり「学習のまとめ」で終わり、シンプルな構成になっていました。その上で、学習の中心となる「身につける・考える」の場面での様子の学び方がとても分かりやすく示されておりました。

以上のことから、その時間に学ぶべき内容を明確にしていること、関心や学習意欲を引き出し、気付きや思考を促すようにしたこと、さらに、小・中・高等学校の系統性を示し、学習の振り返りができること、このことを踏まえながら、立川市の生徒の実態を考慮した教科書として、大修館がよいと思いました。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 保健体育の教科書につきましては、もし来年1年違ったら、どういう内容になっているかなというところをとて感じながら拝見させていただきました。各者それぞれ押さえるところはきちんと押さえているようですけども、熱中症の部分などでは熱中症の病態と治療に関する部分と予防に関する部分で微妙に違っているところがありました。その中では大修館の内容が一番正しく分かりやすいかなというような感じもいたしましたし、特に中学生に関心のありそうなスポーツに関すること、スポーツと体というところが載っているような気がいたしましたので、私も大修館を薦めたいと思っております。

○小町教育長 私も述べさせていただきます。保健体育に関しましては、大修館を推したいと思います。学習の流れが各課題ごとに示されていて、課題をつかむ、きょうの学習、キーワード、学習のまとめというふうに定位置に表記されており、理解がしやすい構成となっています。章のまとめの知識・技能の習得、思考・判断・表現、学びに向かって、学習の振り返りという構成になっていて、生徒自身で理解しやすいように新学習指導要領に沿った展開をしています。資料に関しましても他者より詳しく分かりやすく記載されていて、活用されやすい内容となっています。

○小町教育長 皆さん保健体育に関しましては大修館ということでまとめてございます。お諮りいたします。保健体育につきましては、大修館ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。保健体育に関しましては、大修館といたします。

続きまして、技術・家庭(技術分野)でございます。伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 技術・家庭の技術分野につきましては、私は開隆堂の教科書を推したいと思っております。一つ一つの説明が大変詳しく述べられており、分かりやすくまとまっているのではないかなと思っております。東京書籍も分かりやすく丁寧ではないかなと思っておりますけれども、全体的なバランスから考えたときに開隆堂、家庭分野とも多少からみながら、私は開隆堂を選びたいなと思っております。

○小町教育長 小林委員。

○小林委員 私も開隆堂がいいと思います。学習の流れが漫画で明確に示されています。写真も多く、図も多く、作業するときによく分かるようになっていきます。作品例も多いと思います。巻末にコンピュータの基本操作というのがあって、これがワープロとか表計算とかプレゼンのソフト、プログラミングと、ほかのものに比べてかなり充実しているように感じました。これを活用するかどうかよく分かりませんが、あったらいい役に立つと思います。それから巻末に伝統工芸が出ています。これも技術に関係した日本の伝統的な工芸を、各地域の代表的なものを写真で載せていますが、今そういうものが後継者不足で引き継いでもらえていないという実情もあるかと思っておりますので、もしかしたらこういうものに関心を持つ子どもが出てくるかもしれないというような期待もあって、こういうものがあって、いいことだなと思いました。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 技術・家庭(技術分野)、3者ございます。私は開隆堂がよいと思いました。

開隆堂については、1つには、技術の見方・考え方を育てる、2つには、技術で問題を解決する力を育てる、3つ目に、今日的な話題であるプログラミング、SDGs、安全教育など、学びやすく工夫されているところがいいと思いました。また、多様な学びのある教科書であり、生徒の学びと先生の授業を手厚くサポートしている教科書だと思いました。あと、1点だけ課題としては、小学校のプログラミング体験コンテンツがあると、さらによいと思いました。特別支援教育の観点から、単語が途中で改行されないようによく配慮されていたので、この辺りの気配りはいいと思いました。その上で、ユニバーサルデザインフォントを使用していましたけれども、実習例のフォーマットが統一されるとさらによいのではないかと。そういう中で家庭学習への対応としては、教員向けに自宅学習用ワークシート、これがWeb上に記載されているんですね。これもとてもよいと思いました。

先生方の声の中には、「説明が詳しく書かれているために、自宅でも使用しやすい」あるいは「技術分野のガイダンスが19ページもあり、内容が充実している」、そういう先生方の調査研究部会の報告もありました。それらを踏まえて、開隆堂が私は望ましいと思います。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 技術について、これまで甘く見ていましたけれども、今回教科書を見させていただいて、未来の社会を変える力を持つすごい教科だなと認識を新たにいたしました。

どの教科書もそれぞれ良かったのですが、開隆堂は、話し合ってみよう、考えてみよう、やってみようというところから始まって見やすいですし、製作のところで、のこぎりやかんなを通して力の入れ方など分かりやすく、やったことがなくてもやりやすいように記載されています。それから情報のところの実習例なども分かりやすいと思いました。

ほかの教科書もありますけれども、自ら問題を発見して解決しようとする力を育てようという内容だと感じました。

○小町教育長 私も述べさせていただきます。技術分野につきましては開隆堂を推したいと思っています。ガイダンス、冒頭でも技術というのは、テクノロジーというのは、人々の思いをしっかりと実現するためのものだということを基本に理解を深めていく、これは嶋田委員ご指摘のとおりでございますけれども、そういった背景があつての技術だということをしつかりと捉えておまして、これは生徒の技術に関する興味・関心を引き起こす重要なものだと思っています。また、分野ごとに冒頭、学習の流れが示されておりまして、また、小学校の教科との関連も示されています。そういった意味で学びの連続性を意識した構成になっているかなと思っています。

ページのレイアウトも情報量が多いわりには見やすいというのは構成力があるかなと思っています。行間とか余白をうまく生かしてレイアウトが工夫されている教科書だなと思います。また、昨今大変大きな問題となっています携帯電話、メール、SNSの問題もございます。そういったこともしっかりと取り上げておまして、取り上げ方が生徒自分自身でそうい

ったものに対しましてどう主体的に対応するかというのを具体的な事例を挙げて記載されております。言われて守るルールではなく、自分自身を律するルールとしてどのような取組をしたらいいかということを実事としてしっかりと教科書として押さえている、これは大切な部分かなと思っています。それから巻末に述べられているメッセージは、技術の未来は私たちの手で、私たちの願いや想いと技術が交わることで社会を豊かに変化していくのだ。未来へと夢をつなぐ技術を皆さんの手で創り出していきましょう、という未来に対するビジョンを教科書の中で表している、こんな教科書であると思っています。

○小町教育長 それではお諮りいたします。技術・家庭(技術分野)につきましては、開隆堂出版ということによろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。技術・家庭(技術分野)につきましては、開隆堂出版いたします。

続きまして、技術・家庭(家庭分野)でございます。田中委員、お願いします。

○田中委員 技術・家庭(家庭分野)でございます。3者の中で開隆堂が望ましいと思いました。

開隆堂については、基礎・基本を着実に身に付け、自立と共生を目指す教科書として工夫していたように思います。特にP.56、140、210などでは導入の問いが分かりやすくなっています。その上で対話的な学習に取り組みやすい内容としてよく工夫されていたと思います。また、P.248では、消費生活の内容やその内容が分かりやすく示されています。例えば中学生の被害者、中学生が被害に遭った場合どうするか、その生徒の立場から扱っているのもとてもよいと思いました。QRコードコンテンツでは、実習や実験の動画が設けられています。そのために実習などでは作業の順番が横に展開しています。そのことによって学習の流れが分かりやすく工夫されていました。脚注に「豆知識」が記載されていますが、この豆知識は本文の学習をさらに深める内容になっていてとてもよいと思いました。

以上のことから、立川の生徒の実態である学力差や地域差などを考慮した場合に、開隆堂が望ましいと思いました。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 私は同じように、開隆堂がよろしいのではないかなと思っています。まずは一番違うところは、家庭があり、子どもがあって、そこで何かをつくっていくという、例えばどんな物を食べたらいいいのかということも、家庭を中心として、子どもを中心として、体をつくることを中心としてという流れがとてもいいのではないかなと思っています。

ほかの、例えば東京書籍ですと、最後に子ども、家族が出てきますけれども、その辺の流れをととても納得できる流れとして子どもたちにも伝えられるのではないかなと。特に最近は家族というものをどう捉えるかということが分からないような場合もあると思っていますので、その辺を基準に考えている開隆堂の家庭分野の教科書を私は推薦したいと思います。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 どの教科書もSDGsを意識してありますし、これからの社会を生きていくうえ

で大切な知識や技能が詰まっていいていい教科書だと思います。教育図書の中に虐待防止の記載があるのも良いと思います。

そして開隆堂は多様性に配慮がされていて、今回私はQRコードで見つけきれなかったのですが、ホームページによると左利き用の動画なども出ているようですし、ほかの理科、社会など他教科のテーマにも触れてあるのもいいと思いました。消費者被害のこととか、巻末の災害から命を守るというところも取り上げていていいと思います。

○小町教育長 小林委員。

○小林委員 開隆堂がいいと思います。家庭科というのは衣食住、生きていくうえで大切なことがたくさん詰まっています、今問題になっている新しい話題というのも大事かと思っています。開隆堂は実社会において現実の社会問題をリアルに取り上げているというような感じがいたしました。例えば男性の育休取得のこととか、LGBT、男女差のない制服を子どもたちが取り上げたりとか、少子高齢化の問題なども、解決のため必要なことを取り上げています。消費生活に関しても、悪質商法については簡単に悪質商法に引っかかってしまうというケースも年齢が低ければ低いほど多いですので、これを防ぐために知識をしっかりとって、ロールプレイングで拒否をするというような練習もあります。漫画を使って分かりやすく説明しています。こんなところから、とても身近な問題を身近な感覚で取り上げているという気がいたしました。あと、巻末に災害から命と生活を守るというような、災害を中心に、重きを置いているというふうなことを感じます。最近では日本でも災害が多いので重要なことだと思いますが、例えば製作のところでは非常持ち出し袋を作る例が出ています。なかなか自分ではそういうものは作る気持ちになりませんが、これは必要なんだということを思い知らされます。そんなところから、開隆堂がいいかなと思います。

あと教育図書も、イラストをたくさん使って、アニメの家族「ちびまる子ちゃん」とか「クレヨンしんちゃん」とかを登場させて、若い人たちの気持ちを引きつけているというふうなことを感じています。あと、作品としてはマスクが製作例で載ってしまっていて、これはタイムリーかなと思いました。最後に、調理のところではシールがあるので、教科書に貼って使うという、これはおもしろそうだと思います。

全体的にいいまして、やはり開隆堂がいいかなと思います。

○小町教育長 私も述べさせていただきます。技術・家庭の家庭分野につきましては、私は開隆堂を推したいと思っています。導入の問いが具体的で分かりやすくなっていると思います。例えば108ページの「鼻をつまんで味わってみましょう」というところで、キャンディーの香りを感じながら口に入れ、味わってみよう。鼻をつまんでみよう。味が変わるだろうか、ということで、日常食の調理に関しまして、生徒の興味関心を引く問いだというふうに思います。

また、重要な語句がゴシックで示されていて、そのゴシックを使い方がポイントを押さえて使われています。ページのレイアウトもよくデザインされていたと思います。特に調理のところでは完成図とそれに向けた手順のレイアウトが見やすいと思います。また、中学

生が生活者という視点で内容構成されてとてもいいかなと思っています。単なる生徒ということではなくて、生活をしっかり担う一員でもあるんだという視点が入っているのはいいかなと思います。その視点を地域で自分たちは何ができるかということで、いろいろ地域に出て学んでいる立川の市民科という取組にも通じる部分かなと思っています。

よって、家庭分野につきましては開隆堂を推したいと思います。

○**小町教育長** 皆さんの声は開隆堂という声がございます。ではお諮りいたします。技術・家庭(家庭分野)につきましては、開隆堂出版ということによろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○**小町教育長** 異議なしと認めます。よって、技術・家庭(家庭分野)につきましては、開隆堂出版といたします。

次に英語でございます。小林委員。

○**小林委員** 私は英語は2種類、いいなと思ったのがあるのですけれども、まず、東京書籍の「NEW HORIZON」ですが、学年の目標が、1年は世界とつながろう、2年は世界を広げよう、3年は世界を見直そうというそれぞれテーマが、目標がありまして、それに沿った内容になっています。英語で世界との関わり、それが実感できるような内容になっていると思います。そして各ユニットの間に、文法、書くこと、聞くこと、読むこと、アクティビティが散りばめられていて、単純な授業ではなくバラエティーに富んでいる時間になるとは思いますが、ちょっと盛りだくさんなのかなという気もいたしました。あと、コラムがたくさん載っていてこれもおもしろいです。どこの教科書にも載っているような内容を英語で書いてあるので、つい読みたくなってしまふような文章があります。3年の最後に、これからの英語学習法ということで、ここで終わらせないで興味を持って先につなげてほしいという思いがここに込められていました。

あと、見やすさとしては字体が手書き風なので親しみがわくという気がします。それに反して光村のほうは字体が活字になっています。ただ、レイアウトが左側が本文で右側が問題、リスニング、スピーキング、ライティングというような問題になっていて、その形式が一定しているのでとても見やすい、理解しやすいと思いました。あと光村では、うしろのほうにレッツトークというのがありまして、これは会話の練習のための教材、その場でパッパッと会話をする、やり取りをするという、QRコードでその会話が聞けますので、これは会話の練習になるいい教材だと思いました。

どちらかというと、英語ですので親しみやすいほうが、馴染みやすいというか、そういう雰囲気をもっている教科書のほうがいいかなと思ひまして、東京書籍がいいと思います。

○**小町教育長** 田中委員、お願いします。

○**田中委員** 英語については6者ございますので、その中で私は東書が望ましいと思いました。東書については、小中連続の面で、小学校から中学校へスムーズに移行ができるように配慮されておりまして。特に、入学から夏休み前までの間、十分な時間が確保されていたように思いました。また、小学校で学んだ語彙が巻末に「小学校の単語」で一覧に示されており、

特に1年生のP.132から135の中で小学校の単語として本文Unitで「小」マークで分かりやすくなっていました。とてもいい工夫だと思います。その上で、学力向上の面では、文法のまとめとして「Grammar for Communication」の中で丁寧に文法を解説してありましたが、何度でも見直して自学自習ができるように工夫されていたのはよいと思いました。また、1年のUnit、P.59ですけれども、この中で基本文であるKey Sentenceは必ずUnit本文と同じ文を提示しています。目的・場面・状況の設定を意識づけるように工夫されております。その辺りの工夫もとてもよいと思いました。さらにICTでは、QRコードやDマークコンテンツをもとにしながら自学自習ができるような豊富な分量が用意されておりました。さらに、音声は本文テキストや映像で確認ができるため、学習効果が高いと思われます。

以上のことから、これまでの立川市の生徒の実態として、英語については、平成31年度、全国学力・学習状況調査の分析の結果、外国語表現の能力等の観点別結果を含めて3観点、全国の平均を上回っているんですね。こういうことを考慮するならば、東書が望ましいと思いました。

○小町教育長 嶋田委員、お願いします。

○嶋田委員 英語については、やはりバランスがいいことから、東京書籍がいいと思います。

日本人は英語が話せないだけでなく、自分の意見を持っていない人が多くて、外国の人と議論ができないということをよく聞きますけれども、英語を学びながら日本や世界の著名な人物とかについて勉強できるのはとてもいいことだと思います。スモールトークやレッツトークなどで簡単な会話の勉強もできますし、英語で様々な考えに接して自分の考えを伝えたいなと思えると思います。

1つ、どの教科書も残念だったのが、QRコードで読み込んだものは音声なのかナレーションが喋っているか、または静止画を使っているものかだったので、私が大人になってから子ども向けの英語の番組を子どもと観ていて、アップで、英語を喋るという映像を観て、あんなるほど、こうやってt hとかrとか発音するんだと初めて合点がいったという経験をしたので、口元が見えるような動画がほしかったなと思いました。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 英語につきましては、立川の小学校の国語の教科書は光村になっております。1年のところを見ると比較的入りやすいのかなという感じがいたしましたけれども、全体的にみるとやはり東京書籍の教科書がバランスがよく分かりやすい形になっているかと。先ほど田中委員がおっしゃったように、より高いところを目指そうという方にもいい教科書ではないかなと思っております。全体的なバランスを1年から3年見たときに、東京書籍の教科書がいいのではないかなという気がいたします。

○小町教育長 私も述べたいと思います。英語に関しましては、東京書籍を推したいと思っています。聞く・読む・話す・書くというところがございますけれども、その中でスピーキングをインターアクションとプロダクションの両面から捉えまして、ただ英語のやり取りだけではなくて、英語を使って自分の考えを相手に届ける、そういった新しいものを生み出すと

ということが、これから必要になってくるかなと思っています。そんな意味から、英語で地域を紹介しようということがあります。これは立川市が取り組んでいる、長野県の大町市と中学生同士のサミットをやっていますけれども、自分たちのまちを英語で紹介したものを英語で市民の前でプレゼンするというのを、大町の子どもと立川市の子どもが共同のチームをつくって取り組んでおられて、これに伴って日ごとに表現力が豊かになってきているかなと思っています。これからもっともっと英語を道具として使いこなす、そういった意味で東京書籍は良いのかなと。それが一つ一つ、リスニング、リーディングを含めましてバランスよく配置されていることと、それぞれが色分けされて、どこを狙っているのか明確になっているのいいかなと思います。また、知識・技能を単に身に付けるというだけではなくて、それを使ってStage Activityということで主体的にそれを使ってみようということもあります。それは英語を活用する部分ですので、英語につきましては東京書籍を推したいと思います。

○小町教育長 それではお諮りいたします。英語につきましては、東京書籍ということによろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、英語につきましては、東京書籍といたします。続きまして、道徳でございます。嶋田委員、お願いいたします。

○嶋田委員 道徳については、東京書籍のものが良いと思います。導入がわかりやすく、シンプルな発問でのびのびと授業ができるのではないかと思います。

○小町教育長 伊藤委員、お願いします。

○伊藤委員 私も道徳につきましては東京書籍の教科書を推したいと思います。比較的最近、中学の教科書として選んだそのときにもお話ししましたが、一つ一つの話題がわりあいと丁寧に取り上げられており、また、小学校で出てくるようなことも違う考え方で考えてもいいのではないかなという形でのプレゼンテーションがなされているというところで、とてもおもしろく拝見いたしました。私は東京書籍の教科書を推したいと思います。

○小町教育長 小林委員、お願いします。

○小林委員 私も東京書籍が良いと思います。最初に「一年間で学ぶこと」が出てきて、漫画で、ただ教わるというのではなくて、自分たちで考えて答えを出すみたいなのという説明が分かりやすく載っていました。そして書き込み欄も多くて、その点は活用できると思いました。話の取り上げる題材としては、ジーンとくる、感銘を受けるような話が多かったような気がします。あと、最後に付録みたいなものでピンクと青の円があって、自分の気持ちを、今ピンクはこのぐらいで青はこのぐらいでというような表現ができる付録がありますけれど、それがどんな活用をすればおもしろいか、授業に変化が得られて、ちょっと盛り上がるようなかたちで活用できればいいなと思いました。

あと日本文教出版のほうは、いじめに関してはどこも取り上げていますけれども、その取り上げる量とか取り上げ方が文教出版は特徴があって、いいとは思いました。そして、いじめの知識、人はなぜ攻撃するのかとか、お互いを大切にするコミュニケーション、いじめと

法律、相談先、中学生の取組の例とか、怒りの感情と上手くつき合うにはとか、いろいろな知識が載っていて、それは参考になるかなと感じました。

○小町教育長 途中でございますけれども、教育委員の皆様にお諮りいたします。

立川市教育委員会会議規則第10条で、会議の時間は午後4時までとなっておりますが、同条ただし書きの規定に基づきまして、会議時間を1時間延長して午後5時までとしたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。それでは会議を午後5時まで延長いたします。

田中委員、お願いします。

○田中委員 特別の教科 道徳ですが、全部で7者ございます。この中で東書が望ましいと思われました。特に、内容の工夫として、イラストとか漫画を取り入れております。それによって生徒に適した教材であると思えます。その上で、視点マークによって視点が明確に示されているところがよいと思いました。また、話し合いの活動や授業の展開については、生徒がイメージを持ちやすく工夫されております。かつ、他教科との関連が表示されていたのはとてもよいと思いました。そのために道徳科の授業だけではなくて、家庭での学びにも広げられるように工夫されておりました。構成上の工夫としては、1つの内容項目を3学年で系統的に配置されておりましたし、1教材当たりの分量を少なくして、考える道徳、議論する道徳、新学習指導要領の大きな道徳科の中の柱になるわけですが、この考える道徳・議論する道徳のための時間の確保、これに配慮していたのは特によいと思いました。

なお、教材の配列と学校行事との関連に工夫されてあるのもっとよいのかなと思いました。また、学習別にマーク化されていて分かりやすくなっていました。その上で、「意見シート」が記載されてございます。これが生徒が話し合い活動のときに、活動しやすく工夫されていることもよいと思いました。さらに、観点の始めのページで教材ごとに主な登場人物を紹介してあったのはとてもよいと思いました。とても見やすく紹介されていました。

その上で立川の先生方の声としては、生徒にとって面白い教材を取り入れていること、主体的に自分の生き方を追求して、よりよく生きようとする心を育てること、現代的な課題にも多く取り組むこと、さらに、見通しをもった学習を促し、主体的な学習に取り組む態度を育てること、このような観点から考えると、先生方も特別の教科 道徳は東書がよい、そういう声が聞かれております。

以上のことから、私も東書が望ましいと思いましたので、よろしく申し上げます。

○小町教育長 では私も述べさせていただきます。特別の教科 道徳に関しましては東京書籍を推したいと思えます。東京書籍は、考えよう、見つめようの発問が具体的で洗練されています。生徒が先回りして回答を想定してしまうことが少ない構成になっています。他者の中ではこの部分が大変大きく、生徒がその辺を見越して学んでしまうということになりかねないと思われそうですが、東京書籍の場合はその辺はしっかりと構成されているかなと思えます。まさに主体的に考える、そういう取組の教科書だと思います。道徳は知識の獲得ではな

く、それぞれの道徳的な心情を振り返る、広げ、深めることによりまして自分自身を深めるねらいがあるわけでございます。そういった面でいうと、本市が力を入れております道徳教育に通じる教科書であるかなと思っております。また、タイトルの下に道徳の項目を示している教科書もあるんですけども、東京書籍の場合はそれが無いということでございます。いろいろ意見はあると思っておりますけれども、立川市は生徒にあまり最初から示し過ぎない、主体的に考えるという余地を残す意味でも、立川の子どもたちにとっては課題を出し過ぎないほうが逆に言うと自分で考える取組を残しているという意味で東京書籍が本市にとっては良いのではないかと思います。また、下の段落に脚注とともに自分なりの考え、感じたことを見開きとして記入できるようになっていまして、これは自分で考える主体的な思考、授業を進めていく中で自分のいろいろな思いを生徒それぞれが記入することができると思っております。

○小町教育長 ではお諮りいたします。道徳につきましては、東京書籍ということで皆さんのご意見がございます。よろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、道徳につきましては、東京書籍といたします。

以上で、各教科16種目、令和3年度使用立川市立中学校教科用図書採択の協議はこれまでとさせていただきます。

協議の内容を確認いたします。

国語、光村図書出版。書写、光村図書出版。社会(地理的分野)、帝国書院。社会(歴史的分野)、東京書籍。社会(公民的分野)、東京書籍。地図、帝国書院。数学、東京書籍。理科、東京書籍。音楽(一般)、教育芸術社。音楽(器楽合奏)、教育芸術社。美術、光村図書出版。保健体育、大修館書店。技術・家庭(技術分野)、開隆堂出版。技術・家庭(家庭分野)、開隆堂出版。英語、東京書籍。道徳、東京書籍、でございます。

これらにつきましては、本定例会におきまして採択に向けて追加議案として提出させていただきます。ご異議ございませんか。

〔異議なし〕との声あり〕

○小町教育長 それでは事務局は資料の準備をお願いいたします。

本議案につきましては、資料の準備ができ次第、議事日程の4その他のあとにお諮りしたいと思っております。

---

## ◎議 案

### (1) 議案第51号 令和3年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、1 議案(1)議案第51号、令和3年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 それでは、議案第51号、令和3年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、ご説明いたします。

資料でございますように、現在、市内の小学校では平成31年度に採択した教科用図書を使用しております。現在使用中の教科用図書は昨年度、十分な調査研究の結果を踏まえて採択がなされており、今年度の教育活動においても確実に活用され、子どもたちの学びを支えていることから、令和3年度用教科用図書採択については、平成31年度に採択された教科用図書と同一のものを採択することとするものです。

よろしくご審議のうえ、ご承認くださいますようお願いいたします。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 令和3年度に採択した使用立川市立小学校教科用図書については、使用上の問題も聞かれておりません。引き続き、令和3年度も採択されるようお願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。1議案(1)議案第51号、令和3年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第51号、令和3年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、は承認されました。

---

## ◎議 案

### (2) 議案第52号 令和3年度使用立川市立小学校特別支援学級教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、1議案(2)議案第52号、令和3年度使用立川市立小学校特別支援学級教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 ご説明いたします。

小学校特別支援学級において特別な教育課程を編成している場合、学校教育法附則第9条及び学校教育法施行規則第139条の規定により、当該学年用のいわゆる通常の教科書を使用することが適当でないと考えられる場合には、当該学校の設置者の定めるところにより他の適切な図書を教科書に代えて使用することができることとなっております。本案は、お配りした採択一覧により、立川市立小学校特別支援学級が令和3年度に教科用図書として使用する図書の採択をご提案するものでございます。

採択一覧にある図書につきましては、別添の選定理由一覧にございますように、東京都教育委員会が調査研究をし、適切な図書と認めているものの中から、各学校が十分に調査研究を行い、児童の実態に即して選定したものをご提案するものでございます。

よろしくご審議のうえ、採択していただきますようお願いいたします。説明は以上です。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今説明をいただきました令和3年度使用立川市立小学校特別支援学級教科用図書については、採択をお願いいたします。

理由は3点ございます。1点目は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条の規定によるものである。2点目は、絶版等の観点から使用できない教科用図書に代わる新たな教科用図書であること、3点目は、小学校特別支援学級教科用図書選定理由一覧にも見られますように、立川市第五小学校をはじめ5つの小学校から示されています選定の理由に、児童の発達段階に応じた使い方ができるため、児童の興味・関心を高めることができるため、実生活に活かすことが期待できることなど、児童の現状と課題をしっかりと見据えた明確な選定理由があること、以上の理由から、是非、採択をお願いいたします。

その上で、本教科用図書の使用にあたっては、児童の実態に即した有効活用と使用後の教育成果を期待しているところでございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。議案(2)議案第52号、令和3年度使用立川市立小学校特別支援学級教科用図書の採択について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第52号、令和3年度使用立川市立小学校特別支援学級教科用図書の採択について、は承認されました。

---

## ◎報 告

### (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

○小町教育長 続きまして、3報告(1)新型コロナウイルス感染症の対応について、に入ります。

小林教育総務課長、説明をお願いいたします。

○小林教育総務課長 それでは、立川市新型コロナウイルス感染症の対応について、私から感染症対策本部の令和2年8月22日以降の開催状況につきまして、ご報告いたします。

資料の1ページをご覧ください。

第35回は8月22日土曜日に開催いたしまして、1件の案件について検討を行ったところでございます。内容につきましては、本市の職員1名が新型コロナウイルス感染症に感染していることが判明したため、その対応について検討するとともに、本日中に市ホームページで情報発信することといたしました。

ホームページで公表した内容は3・4ページにございます。報告は以上でございます。

○小町教育長 寺田統括指導主事。

○寺田統括指導主事 では、2 学期のスタートの様子について、大規模改修を終えました第七小学校を中心にご紹介させていただきます。

恒例となりました足踏み式の消毒になります。感染症対策として子どもたちが活用しております。

夏休み後ですので、夏休み中の自由研究等も各場所に飾られておりました。

1 年生の教室前、少し見にくいですが絵日記の様子も掲示されております。

授業の様子です。子どもたちはマスク着用のまま、間隔を広げて授業を受けております。通常は 2 人 1 組で並んで授業を受けるのですが、まだ 1 人、1 人間隔を広げた状態です。ただ、人数の多い学級は少しこのように狭く感じる場所がありますけれども、できる限り間隔をとった状態で授業を進めております。先生、ちょっと見にくいですが口だけのマウスシールドをしてこの方は授業を行っております。

行ったときにちょうど 1・2 年生が合同で学校探検をしておりました。大規模改修を終えた校舎ですので、それぞれの教室をグループになって回っておりました。このときもマスクを着用してやっておりました。

専科の授業もスタートしておまして、それぞれの教室の利用の仕方等のガイダンスを行っておりました。市教委のほうからも特別室を利用する際は、その前後で手洗いをしっかりして活用させてくださいというふうに学校に指示しておりますので、その様子です。

水道の蛇口のところは取り換えてレバー式になっておりました。子どもたちに感想を聞いたら、非常に使いやすいと言っておりました。

音楽の授業の様子です。音楽の授業に関しても、合唱は絶対にやってはダメだという指示はこちらでは出していなくて、これだけの空間がございますので、向きや間隔をしっかりとって工夫して合唱等にも取り組めるように先生方も工夫しております。

次は図書室の使い方、こちらのガイダンスを行っておりましたので、その様子を写真に撮ってまいりました。

こちらは体育館です。体育館の活動の中でも各グループがしっかり間隔をとって取り組んでおります。右上にはクーラーが入っております。

次は給食の様子です。給食もまだグループにせず、それぞれ 1 人、1 人向きを同じ、揃えた形で給食をとるような指導をしております。

こちらは始業式の様子です。第一中学校はテレビ放送を使った始業式を行っておりました。ただテレビ放送といっても、しっかり会式の始めの礼をしたりとか、中学生らしい態度で臨んでおります。

次は小学校です。小学校ですと始業式、終業式等は子どもたちの作文等を発表する場面があります。それもテレビ放送で行っておりました。これは第八小学校になります。

松中小学校は放送ですが、こちらの 2 人に対して始業式をしているのではなくて、校長先生が放送で話して、このあとの 2 人は同じように作文を放送で発表する、準備をし

ています。

大山小学校は校庭で始業式を行っております。こちらでも作文の発表を子どもが行っております。

こちらは第七中学校です。体育館で始業式を実施しております。

このように学校の施設や人数、状況によってしっかり間隔をとって始業式を実施している様子でございました。

それぞれ学校の始まる前に、コロナの感染者が判明した場合にも感染者に対して偏見や差別を絶対に行わないよう指導した上で、2学期の学習活動をスタートしております。

私からは以上です。

○小町教育長 報告ありがとうございました。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、嶋田委員。

○嶋田委員 7月は長雨で、8月は猛暑で気温が上がって子どもたちの体力がすごく落ちていると思いますので、体育だったり熱中症などにも十分気を付けていただきたいなと思っています。よろしくお願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 しっかりと子どもたちの様子を捉えながら、学校現場の様子がよく分かりました。改めて新型コロナウイルス感染症の対応については、教育委員会事務局の皆さんの懸命な対応と、小中28校の感染防止への涙ぐましい取組に心から感謝申し上げます。

9月以降の学校訪問の時には、管理職の先生から新型コロナウイルス感染症予防を踏まえた学校経営について、しっかりと学んでいきたいなと思います。その上で今後の感染防止対策環境整備として何ができるのか、それを一緒に考えていきたいと思っております。

今後大事なことは、国立感染症研究所からも示されております3密の回避、この基本的な防止対策をさらに徹底していくことが必要かなと思います。もし、友達あるいは家族、自分が感染したらどうなのか、その問いかけ、気づきから互いに支え合う行動への対応、これが求められるのではないかと思います。その意味では、新型コロナウイルス感染症予防を我が事として捉えることが偏見、差別を克服する鍵であると思います。先ほども寺田統括指導主事からお話があったように、偏見であるとか差別であるとか、そういうものをしっかりとなくしていきたいというお話がありましたので、是非その方向でお願いします。

ちなみに、国立成育医療センターのグループの方が、7歳から17歳までの子どもたちあるいは保護者を対象にして、今年の6月から7月に行った調査結果によりますと、家族が感染した場合は「秘密にしたい」と回答した子どもは実に32%、「秘密にしたいと思う人が多いだろう」が47%、これは複数回答になってございます。また、22%が感染して治った子どもと「あまり一緒に遊びたくない」、40%が「遊びたくない人が多いだろう」と回答しています。こうした意識は偏見や差別につながる可能性が考えられるかなと思います。

「もし、お父さんやお母さんが感染したらどうするんだろう」、そうなる、お父さん、お

母さんには「もう会わない」、そういうことになるだろうか、考えさせることが重要だと思います。思いやりをもって接する気付きが大切でありますし、差別意識の根底には「自分だけが安心ならよい」というエゴイズムに気づくことが求められていると思うんですね。そういう問いかけから気づきを生み、支え合いの行動への取組が大事であると思います。

その上で、学校においては、児童・生徒の生活のリズムを整えていただくとともに、安全と充実の2学期となるよう心から願っております。今後とも、そのことをよろしく願いたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 夏休みも終わって、我が家の前も登下校の子どもたちの声が聞こえるようになりました。時々出会いますが、友達同士で帰ったりしている様子を見ていますと、マスクをつけている子もいれば、つけていない子もいて、見ているおばさんは「マスクどうしたの」と言いたくなるのですけれど、言おうかどうしようかすごく悩みながら結局言わないではいるのですけれども、友だち同士でもお互いに「マスクしよう」という気持ちになれるような、していない子がいたらちょっと声をかけてあげられるような雰囲気をつくっていただけたらなと思いました。

○小町教育長 前田指導課長。

○前田指導課長 委員からお話がありましたように、今、熱中症と感染予防との兼ね合いの中で、マスクを外すことを承認する場面も場合によっては出てきていることもあり、子どもたちの中で暑いなあということと、そのお友達に会うまではひとりで通学路を歩いてきたのかもしれない。そういったことの中から、つけ忘れしてしまうようなお子さんの中にはいらっしゃるのかなと思っています。そういった子どもたちに対しては、子どもたち同士でも十分に相手のことが大事だからお互い気をつけようよというような、相手のことを大切にしているからこそ注意し合える、そういったウィズコロナの対応というのできるような、そういうのは今後の感染防止対策に向けた注意喚起は今後も校長会等通じて行っていきたいと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 様々な対策をありがとうございます。お聞きしたいのですが、今のお話ではないのですが、朝、出るときにたまたまマスクを忘れて出てきてしまって、学校まで行ったら、持ってないじゃないかというようなことになったときに、学校で用意してあるということはあるのでしょうか。

○小町教育長 前田指導課長。

○前田指導課長 学校のほうで準備は一定程度ございまして、そのために5月中のいわゆる政府のほうから配布された布マスク等については、1つは配布せずにストックしてあるというようなことで、忘れたしまった子どもたちへのストック等も各学校工夫しながら備えているような状況で学校を再開しているところでございます。

○小町教育長 嶋田委員。

○嶋田委員 今週に入って少し涼しくなるかと思ったら、一向に涼しくならないですけれども、学校によっては日傘を持ってきていいという学校もあるみたいですが、私たち女性の多くは炎天下を歩く時は日傘があるとずいぶん違いますので、その発達段階によると思いますけれども、日傘オーケーというような話はないのでしょうか。

○小町教育長 前田指導課長。

○前田指導課長 日傘に関しましては、特に使用に関するご相談、あるいは私どものほうで積極的な利用というのはお声かけしていない状況でございます。といいますのは、特に小学校において、傘をさすというのは指導上、様々な配慮を要する部分がございます、梅雨時になると子どもたち、傘をさしながらの歩行自体も配慮しなければいけない低学年の子どもたちもおりますし、逆に、傘のさし方によっては視角が著しく狭くなってしまって、交通安全上の配慮もしなければいけないというようなこともある場合がありますので、今の時点では飲料水は水筒を持って、例えば私が見かける子どもたちは、木陰に集まって、一旦そこでみんな飲料水を飲んで、それからまた「行くぞ」と言って登校していますけれども、そういった形で熱中症予防をするようなことについての声かけをしているところでございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。報告(1)新型コロナウイルス感染症の対応について、報告及び質疑を終了いたします。

---

### ◎その他

○小町教育長 次に、その他に入ります。

その他はございますか。南学校給食課長。

○南学校給食課長 学校給食課から、1点ご報告させていただきます。

市民説明会の開催についてですが、新しい学校給食共同調理場の整備に向けた市民説明会ですが、8月30日曜日14時から、女性総合センターアトムホールで行います。また、9月2日夜7時からですが、たましんRISURUホールで説明会を行います。こちらにつきましては新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、説明会を開催いたします。

なお、次回9月3日木曜日の第17回立川市教育委員会定例会におきまして、この市民説明会の開催状況について、こういった質問があったとか、そういったところを報告させていただきます。

説明は以上になります。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。これでその他の内容の報告を終了します。

---

### ◎議 案

(3) 議案第53号 令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、議案第53号、令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 それでは、議案第53号、令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、ご説明いたします。

先ほどご協議いただいた内容を踏まえ、今お配りいたしましたとおり、一覧にまとめさせていただきました。

なお、本日決定された発行者の教科用図書については、来年度から全学年で使用することが原則でございますけれども、本年度までに複数学年にまたがる教科書が配布されてございます。第2学年の社会(地理的分野)、第3学年の音楽(一般)、第3学年の美術、第2学年、第3学年の書写、社会(歴史的分野)、地図、音楽(器楽合奏)、保健体育、技術・家庭(技術分野)、技術・家庭(家庭分野)になります。これらの教科書については、今年度までに配布された教科書を継続して使うという規定になってございますので、このことについては、ご承知おきいただければと思います。

ご確認いただきまして、ご承認くださいますようお願いいたします。説明は以上です。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今、前田指導課長からご説明がありましたので、説明の方向でよろしくお願いたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。議案第53号、令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第53号、令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、は承認されました。

---

◎議 案

(4) 議案第54号 令和3年度使用立川市立中学校特別支援学級教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、議案第54号、令和3年度使用立川市立中学校特別支援学級教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 議案第 54 号、令和 3 年度使用立川市立中学校特別支援学級教科用図書の採択について、ご説明いたします。

中学校特別支援学級におきましても小学校と同様に特別な教育課程を編成している場合、当該学校の設置者の定めるところにより他の適切な図書を教科書に代えて使用することができることとなっております。本案はお配りしました採択一覧により、立川市立中学校特別支援学級が令和 3 年度に教科用図書として使用する図書の採択をご提案するものでございます。

採択一覧にある図書につきましては、東京都教育委員会が調査研究をし、適切な図書と認定しているものの中から、別添の選定理由一覧にございます各学校が検討し選定しているものでございます。また、ただいま採択していただいた中学校教科用図書の拡大教科書も含まれてございます。

よろしくご審議のうえ、採択していただきますようお願いいたします。説明は以上です。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 前田指導課長から説明がございました方向でお願いいたします。特に義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条の規定によるものです。今ご説明がありましたので、説明の方向でよろしくをお願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。議案第 54 号、令和 3 年度使用立川市立中学校特別支援学級教科用図書の採択について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第 54 号、令和 3 年度使用立川市立中学校特別支援学級教科用図書の採択について、は承認されました。

以上で本日の議題は全て終了いたしました。

---

### ◎閉会の辞

○小町教育長 それでは次回の日程を確認いたします。次回、第 17 回立川市教育委員会定例会は令和 2 年 9 月 3 日、午前 10 時から、302 会議室で開催いたします。

これをもちまして、令和 2 年第 16 回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後 4 時 2 8 分

署名委員

.....

教育長